

■ 百舌鳥八幡宮弓始神事 古式大的式

1月2日堺市百舌鳥八幡宮において弓始神事、古式大的式があり、府連有志25名が奉仕しました。今年の百舌鳥八幡宮は朝から穏やかな陽気となり、開始時間の前から大勢の参詣者が見学に集まりました。式が始まり大的的中すると、大きな歓声と拍手がおこり、華やかな中にも厳かに行われ、一年の平安を祈願して無事に終わりました。



(写真：塚本正雄)

■ 第30回 加支多八幡宮 新春百射会

1月3日加支多八幡宮弓道場に於いて恒例の新春百射会が開催されました。府下弓友会から71名が参加者しました。今年は千代松大耕市長(泉佐野市長)・米埜巳年雄(泉佐野体育協会会長)をお迎えしての競射会となりました。午前8時開会式、終了午後8時迄とほぼ12時間に及ぶマラソン競技会となりましたが今年は進行時間の都合で96射となりました。結果は次の通りでした。

【最多的中賞】

中尾邦廣(加支多) 82中

【女子の部】

- ① 林 直子(万博)・②堀井佳菜(清和)
③高田友美(清和)

【男子四段以下の部】

- ① 久禮大弥(岸産)・②中谷春貴(岸産)
③久禮有司(岸和田)

【男子五段以上の部】

- ①中尾邦廣(加支多)・②大楽真健(万博)
③玉木利徳(八尾)



出場選手の競射風景



各部優勝選手

(記事：西郷重幸 ・写真：塚本正雄)

■ 大阪府連初射会

1月6日大阪府弓道連盟の初射会が万博記念公園弓道場で開催されました。

参加者143名。中野英夫府連会長挨拶の後、野上勝利先生の「巻藁射礼」、中野英夫会長の「矢渡し」が行われました。

全員参加による一手祝射が行われ、昼食後、昇段・昇格者等による一ツ的射礼・持的射礼、全員参加による金的・扇的・かるた的など余興が賑やかに行われました。最後は後藤正行教士・山中敬雄教士による立射礼による納射が行われお正月らしい雰囲気の中、盛会裏に閉会しました。



野上先生巻き藁射礼



中野会長矢渡し

■ 住吉大社御結鎮祭神事

1月13日住吉大社に於いて、御結鎮祭りが催されました。ここ住吉大社は摂津の国一の宮として信仰篤く、本殿は神社建築上特殊な様式で「住吉造り」と称されています。正面に建つ両柱が四角の石鳥居は珍しく、「住吉鳥居」と言われています。ご本殿は四社ともに国宝に指定されております。

御結鎮祭は何時頃始まったものであるか定かではありませんが、「天下泰平・五穀豊穰を祈る祭事」と言われています。

今年は「神館」(御皇室の方が参詣の折に使われる休憩所、庭に向かって玉座があり普段は入る事が出来ません)の前庭で行われ大阪府連がご奉仕させていただきました。



会場に向かう行列



神館の前庭の様子

(写真：塚本正雄)

■ 常任理事会開催

1月19日大阪城弓道場会議室に於いて「常任理事会」が開催され、「全日本弓道連盟」及び「近畿連合会」の平成25年度行事予定が確定したことを受けて、大阪府連の行事予定について審議が行われ承認されました。※平成25年度予定表は各クラブに配布済

【注意事項】

- ・府連審査問題は平成25年4月1日以降実施される審査に適用
- ・新様式の審査用紙は平成25年4月1日以降実施される審査から使用する事。(連合審査・中央審査は従来通り)
- ・審査用紙の「講習履歴欄」の白紙は受け付けませんので十分気を付けて下さい。
- ・審査会場が従来は「万博」・「堺」の2会場でしたが新しい試験場が加わりましたので十分気を付けて下さい。
- ・四段の講習会は年1回になりましたが、大阪城弓道場の五段の夜間講習会と同時に開催します所以ちからも受講して下さい。

■ 第8回万博機構杯・

大阪府遠的色的得点制弓道大会

1月20日好天に恵まれた万博記念公園弓道場において、「第8回万博記念機構杯大阪府遠的色的得点制弓道大会」が開催されました。参加者79名。結果は次の通りでした。

☆男子の部

- ①野中秀治(万博)・②馬淵信幸(岸和田)
- ③二宮 一(高槻)・④山中敬雄(豊中)
- ⑤高辻照生(高津)・⑥佐伯秀男(高槻)
- ⑦大楽真健(万博)・

☆女子の部

- ①小西充子(万博)・②山田直美(高津)
- ③甲斐昭子(万博)・④白石 唯(万博)
- ⑤堀井佳菜(清和)・⑥中塚美穂(万博)
- ⑦岡崎玲子(万博)

☆敢闘賞 吉田真希子(高槻)



男女優勝～3位の各選手

☆ 大阪府弓道連盟の歩み ☆

矢野 徳一
(岸和田弓友会)

聞き手：牧野徳一

語り：岡本 要

テーマ：「思い出すままに」

聞き取り：昭和46年7月21日

岡本要先生プロフィール

岡本 要範士
(万博弓友会名誉会長)

☆明治40年6月生、昭和58年8月没 昭和47年5月範士…最終、範士九段(大阪では終戦後初めて範士になられた先生)、鐘紡所属、万博弓友会産みの親でもあります。

私が弓を始めたのは、大正15年12月の25日でした。その日初めて弓を持ちました。大正天皇がお隠れになった日で、すぐに昭和元年、4・5日して昭和2年になったわけです。その時代、既に、鐘紡では弓は盛んに行われていました。その当時、岡内 木先生(明治41年5月 範士・昭和14年4月没)も来られていたようにも聞きましたが、鐘紡の師範は片山先生でした。その後上田仁一先生となりました。この先生の時代が、一番鐘紡の弓の華やかな時代であったと思います。上田先生から、兵庫の酒井彦太郎先生に変わられました。この先生の時代に岡本正行さんも来ておられました。その時分、鐘紡に浜田 隆という人が居られ、京都の三原さん、兵庫の前田さんとともに、関西の三名手と言われた人でした。それから後藤さんに、冰山さんが居られました。冰山さんは、後藤、長尾君に対抗しておられた。私は昭和13年に上海に出ましたので、その後の弓界のことは知りません。終戦後引揚げて参りまして、その頃は、大阪例会は鐘紡でやっていたので、そこが大阪府連のホームグラウンドでした。その後日本澱粉の道場を長い間つかいました。矢野さんが会長でいられたからそうなっていました。矢野さんが連盟を去られて、木下氏に変わりました。道場は造幣局に移行しました。そして、そのあと、待望の高津道場が出来ました。以上が概略で、「愛弓会」という集団が生まれ、大島・湊会長、上野傳三郎副会長で発足し、半年、大島さんが辞められ、上野・岡本で続き、矢野・木下となり私は副で続けてきた……。(以下次号)